

団体ヒアリングの結果について

団体名	①活動状況（年間事業等）	団体の課題	② 保健、医療について	③ 生活環境の整備について（住まいについての課題やバリアフリー、災害・緊急時の支援について）	④ 生活支援について（障害福祉サービスや地域生活支援事業、相談体制について）	⑤ 教育や保育について	⑥ 雇用や就労について	⑦ 障がいへの理解や交流について	⑧ 計画への要望について
1 江別身体障害者福祉協会	・現状では会員は50名弱 ・年間を通してスポーツ関係イベント、旅行などを行っている。	・若い人が入ってこない	・医療については、恵まれていると思っている。 ・自身で体力維持、鍛えたりすることが大切だと思っている。	・緊急ボタンが整備されている ・周囲の人に助けてもらい恩恵を受けている（除雪など）	・男性ヘルパーが減っており、力の必要な場面で苦勞することがある。 ・相談はケアマネジャーや親族にもしているが、市の障がい福祉課が一番相談にのってくれている。	・特別支援学級において、思春期への配慮として、特に男性支援員の増員が必要と感じている。	・労働意欲があっても、企業側の受け入れが難しい場合がある。 ・中小企業も大企業のように、障がい者雇用にもっと進んで取り組めるようになってほしい。	・コロナ感染症の影響もあり、他の団体との交流機会が減っており、現在も交流を持つことがなかなかできていない。	・障がいのある方も参加する災害時の避難訓練がもっと必要と感じている。（障がいのある方は、避難することが難しいことを健常者の方に理解してもらうことが大切と感じている。）
2 江別視覚障害者福祉協会	・会員数 17名 ・月1回ぐらいの割合でいろいろな行事を考えて実行している（茶話会、ウォーキングなど） ・SNSで告知を使っている（X、フェイスブック、HP、YouTube）	・若い人が入ってこない ・スマートフォンの操作に不慣れな方がいるため、SNSによる情報提供などが会員に受け入れられていない点がある。	・視覚情報がなく、高齢化に伴い理解力の低下もあるため、医療機関等では寄り添って説明してほしい ・マイナンバーの紐づけは操作ができない（読み上げでは個人情報漏洩の恐れ） ・役所等からの書類、文字の大きさなど配慮してほしい。	・災害時に避難所まで1人で行けないので、フォローが必要。 ・盲導犬の同行は受け入れを拒否される避難所があると聞くので改善してほしい。（※） ・在宅避難時は、様子見に来訪するなどのフォローをお願いしたい。 ・市に要望をしている点字ブロックの設置については、早めに取り組んでほしい。	・相談支援員がいるという周知が不足していると感じる。 ・同行援護の活用時間が足りない方がいるため増加してほしい。 ・ヘルパーの高齢化、引退により減少しているため育成が必要。	・視覚支援学校があつて社会に繋がるということを周知してほしい ・情報図書館内に視覚障害の方向けのものが少ない ・情報図書館とサビエ図書館の連携を希望	・就労支援事業所の工賃が安い。そのため、自立した生活ができない。 ・法定雇用率を上げるためだけの雇用になっていると感じる障がい者雇用がある。 ・自立して生活出来るような環境を希望	・市役所には、視覚障がい者のイベントを周知してほしい。 ・障がい者団体のイベントの際は、他自治体の先行事例を参考に江別市においても、より密接に関わってほしい。	・日常生活用具の耐用年数や上限額を拡充し、より使いやすい制度にしてほしい。
3 江別聴力障害者協会	・会員数24名 ・毎年4月に総会 ・パークゴルフ大会、クリスマス交流会、茶話会（懇親会）	・会員以外の聴力障がい者と交流が図れておらず、情報交換ができていない。 ・若い人が入ってこない。ろう講師（聴覚障がい者）は平均50歳以上になっている。	・医療機関に手話通訳を派遣してもらえるので、今後も手話通訳者の派遣を継続してほしい。 ・聞こえない人の高齢化もあり、書類等の理解が難しくなっているため、より丁寧に説明してほしい。（医療機関等で）	・（災害時だけでなく）公共の場などでは、文字など視覚に訴えられるので、今後も手話通訳の派遣を継続してほしい。 ・一人暮らしの高齢者の緊急時の連絡方法（システムがあっても申請方法や使い方がよくわからない） ・災害時に聞こえない人が集まる場所作り（情報交換しやすく不安解消）	・耳が聞こえない人への賃貸住宅の貸し渋りへの不安 ・高速料金などの福祉割引等の認知度の低さの改善。 ・新しい制度の際には勉強会を開催してほしい。	・両親共にろう者（何らかの障がいのある方）の場合、保育園への入所の優先順位が早くなる制度は今もあるのか。あるなら継続してほしい。 ・学校で常時、手話を教えるような機会を設けてほしい。	・自宅から近隣で就労したくても、不採用となり、遠方の会社に通勤している方がいる。ようやく就労できても遠距離通勤が大変なので、江別市内で聴覚障がい者の雇用の充実を図ってほしい。	・友好都市との交流に障がい者が参加できる場を設けてほしい。 ・江別市総合社会福祉センターに協会の事務局を設置してほしい。 ・市のYouTubeや、市長の会見などには手話通訳の設置を希望。	・手話言語条例施行5年目の記念事業を希望。 ・民間バスでの移動は、バスのレンタル代金など経費負担が大きいので、福祉バス制度の復活を希望。
4 精神障害者の会江別空色クラブ	・会員は20名程度、若干減ってきている。 ・概ね月に1回、会員が顔を合わせることができているイベントを実施。（お茶会、食事会など） ・社会奉仕活動（駅清掃を年2回）	・旅行以外のイベントでは人の集まりが悪いのが課題。	・江別市内の精神科が今後も維持され拡充されることを期待。 ・収入の少ない中で生活をしているため、将来に不安のある会員が多い。	・住まいについては特になし ・災害時に避難等をする際に、特に一人暮らしの方へのサポートが必要（何をしたらよいかわからなくなってしまうので）	・就労支援事業所のB型の賃金が低くて自立した生活に結びつかない。 ・精神障がいには様々な病気が多くあることについて、社会的認知度が低い。 ・引きこもりなど、外に出てこれない人が多いため、潜在的な方の生活相談窓口を作してほしい。	・以前にくらべて教員に、うつ病などの精神疾患の方が多くなっている聞く。教員の就労環境の改善が必要と感じる。	・自身の体調が安定しないなど、医療機関の判断などにより就労に時間的制限がある方がいる。その結果、就労が継続されない。 ・自身の体調や精神疾患を理解したうえで短時間勤務にしている。	・コロナ感染症の影響もあり、研修会等などは中断されているため交流機会が減っている。 ・茶話会等で会う機会を作り、仕事や生活上の悩みなど話し合うことが大切だと感じている。	・精神障がいの社会的認知度がまだ低いので、広められたら良いと思う。 ・地下鉄しか交通費割引がないので、JR・バス・タクシーの運賃割引を導入してほしい。
5 江別手をつなぐ育成会	・正会員136名、賛助会員156名 ・知的障がいのある方とご家族の福祉の向上を目指して活動 ・毎月、会報を発行（福祉に関する、地域に関する様々な情報提供を行っている。） ・障がいのある方と家族のための研修会、定例会という形で開催 ・年1回、一般住民の方も対象とする講演会	・会員の高齢化、若い保護者の方の加入が進まない。 ・本人活動（障がいのある人が勉強会やレクリエーションなどを自ら企画・運営すること）を柱に置きたいが、十分にできていない。	・療育手帳Bの方も経済的負担が大きいので療育手帳Aと同等の医療費助成などの支援を受けられるようにしてほしい。	・グループホームの住宅設備について、エアコンが未設置のグループホームには、何かしらの助成をお願いしたい。 ・災害時の避難所では、パニックになってしまう方がいるので、心を落ち着けるようなスペースを用意してほしい。	・特別支援学校・学級へは遠距離通学になるケースが多いので、スクールバスを希望。 ・緊急時や保護者が急病時などに、すぐに受け入れてくれる一時預かり（宿泊も含めて）の施設希望。	・特別支援学級では、教員により障がいへの理解の差があると感じるため、教員の質の向上が必要。 ・幼稚園の入園の際、補助の先生を申しこんだ後に、条件をつけられることがあるため、もっと通園しやすい環境を作してほしい。	・ジョブコーチの支援が必要な方がいても、ジョブコーチが少ないため適切な支援を受けられないケースがある。 ・当事者同士が交流を図ることができるサロンがあれば、就労先などでも活かすことができる情報を得られると思う。 ・高校卒業後の支援が足りないため、親が仕事を休んだり早退しているケースがあると聞く。卒業の支援の拡充が必要。	・公的などところからの情報発信の拡充を希望。 ・スクールカウンセラーのような相談員に気軽に相談できる場を、もっと提供して欲しい。	・障がいの程度にかかわらず、親の緊急時に利用可能な短期入所や日中一時支援を希望。 ・地域の中で障がいのある方が自立して暮らせるためにグループホームの増設を希望。

団体名	①活動状況（年間事業等）	団体の課題	② 保健、医療について	③ 生活環境の整備について（住まいについての課題やバリアフリー、災害・緊急時の支援について）	④ 生活支援について（障害福祉サービスや地域生活支援事業、相談体制について）	⑤ 教育や保育について	⑥ 雇用や就労について	⑦ 障がいへの理解や交流について	⑧ 計画への要望について
6 江別介護マの会	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、20名くらい。 ・重度肢体不自由児者の母親が声をかけ合って、2017年から活動 ・親子サロンつながるカフェanyと社協の茶話会で活動場所を2か所にて活動中 ・ケアカフェといった形で、当事者からの情報発信をする活動 情報共有はLINEグループを活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・有志の活動のため、しっかりした形の組織ではないこともあり、活動が危ういと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児慢性特定疾病や指定難病の受給者証を持っている方と、重度心身障害者医療費助成制度の受給証のみの方とでは、月額の上限額が異なるため重度心身障害者医療費助成制度の受給証の方は負担が大きい（同じ肢体不自由でも不公平感があるなど感じる。） ・子どもの病状だけでなく、保護者の世帯収入など違いを把握できていないので、個別の聞き取り調査が必要かと思う。 ・医療的ケア児者について、小児期から成人期へ移行する際に切れ目なく適切な医療支援を受けられるようにしてほしい。 ・成人へ移行したあとのリハビリ訓練を江別市立病院やその他の医療機関で受皿となってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が上がるにつれて、体格が大きくなるため、住居の改造などの際に高額な出費が伴う。 ・移送サービスがなく、福祉車両の購入も保護者の大きな負担が大きい。 ・災害時に医療的ケア児者が孤立しないような防災上の仕組みが必要。 ・市内の基幹病院に登録するシステムを作り、災害時に受け入れ可能な医療機関をあらかじめ分かるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市に医療的ケア児者及び重症心身障がい児者が利用可能な「生活介護事業所」、「短期入所事業所」の開設・増設して欲しい。現在は近隣市町村に通っている。 ・訪問入浴の回数制限について、通常週2回利用できるようにして欲しい。週1回の場合、何らかの事情で訪問入浴ができないと、入浴が2週間空くことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障がい児の就学環境の整備を希望。現在、江別市内に特別支援学校がないため、市外へ通学しているが、長距離移動は健康上のリスクがあり、特に冬は通学を断念する方がいる。 ・小中学校に看護師を配置している学校もあるが、重症心身障がい児は行き場がない。 ・医療的ケア児についても、小中一貫教育を導入し、切れ目のない支援を希望。 ・理想は、兄弟姉妹と同じ学校に通学できるよう居住区内の学校に入学させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの高等部卒業後に、支援が足りないため、特に母親の介護離職に繋がっているケースがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを持つ者同士のケアカフェは必要であり、ケアカフェには専門職（看護師や相談支援員など）を配置して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成にあたり、今後も今回の団体ヒアリングのように当事者からの声を聞いて作成してほしい。
7 江別地区こばを育てる親の会	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会との意見交流会 ・夏、冬にお楽しみ会を計画 ・赤いはね共同募金の活動（社協からの補助金助成の条件） ・茶話会、研修会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・働いている方は会の活動に参加できないと加入を断られてしまうため人員不足。 ・役員のなり手不足。 ・通級学級に行っている子どもが中学校に進学すると、中学校には通級学級がないため、支援の手がなくなってしまう、支援の継続につながらないことを危惧。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に子ども発達クリニックと言われるような、小児精神を扱える病院がないため、市外の病院に行くしかない。 ・通院が遠距離となるため保護者の負担が大きくなっている。 ・医療費について、療育手帳の取得ができない軽度の症状のため、医療費負担は大きい。 ・手帳の取得ができないため、税制上の控除がないため、金銭負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外見上、普通に見えるため、災害時にパニックになっても、親や子どもの困り感が周囲に伝わりづらい。 ・避難所内で、落ち着かせるための別スペースの確保を希望。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校進学後に、相談先がなく困ってしまう方がいると聞く。福祉サービスに繋がっていない方も含め、進学先でのサポート体制の充実を希望。 ・福祉事業所により、サポート内容の得意・不得意があるため、その当事者の課題等にあった支援を受けられるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級で理解が得られず特別支援学級に転籍を求められるケースがあるが、通常学級内での支援の強化が必要と感じる。 ・小学校への就学前の就学相談同様、幼稚園選びの段階でも同じ仕組みがあるとよい。 ・3年保育を希望して入園した保育園で、2年目以降の更新を断られるケースがあり、行き場がなくなる。支援への理解を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいのある子が就職活動をしているが、その子が一般就労できなかった場合、どのような支援等があるのか、どこに相談したら良いのか不安がある。 ・子どものために早退したり、フルタイムからパートタイムに変更する親がいるため、サポートする側（保護者）への支援を手厚くして親が就労を継続できる環境にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この会は小学校を卒業すると、自動的に退会となるので、情報共有の場面や会員同士の繋がりが減ってしまう。 ・行政からの情報を含め、障がい福祉に関する情報発信が少ないと感じるため改善して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢制限なく、軽度の障がいであっても広く使える支援体制の充実。 ・手帳の取得ができない方に対しても、福祉サービスの利用ができるような体制づくり。 ・利用負担額について、経済的負担が大きいため課税世帯であっても非課税世帯と同等の配慮をして欲しい。
江別市自立支援協議会相談支援部会	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1回勉強会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足により、相談支援事業所が減ってきている。 ・暮らしに関わる（在宅生活の課題など）の部会がないため、必要性を感じている。相談支援部会、就労支援部会、子ども部会の三つの部会で、地域の課題を吸い上げるのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達外来が江別にないため、市外に通院している方がいる。 ・特定疾患について、保健所の対応に変化があり、窓口から郵送対応になったので、本人から手続きが大変になったという話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用者を受け入れられるグループホームが少ない。 ・バリアフリーが進んでいないと感じる。 ・JR野幌駅の車いす乗降が17時15分までなので、それまでに駅に行かなければならず、時間を伸ばしてほしい。 ・親の緊急時に受け入れてくれる短期入所がないことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センターが1ヶ所しかないが、精神障がいの方に強い一方で、その他の障がいのある方が利用できる地域活動支援センターがあると良い。 ・障がい児と障がい者のグループの連携が不足していると感じる。 ・訪問入浴の回数は、現在制限があるが年齢等によって必要回数は違うと感じるので、柔軟な対応をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の障がいにより保育園側から受け入れを断られた場合、福祉サービスの利用につながるが、そもそも保育園の支援体制が充実していれば、福祉サービスでなくても良い方もいるため、結果、福祉サービス利用が増えすぎて事業所内は飽和してしまっている。 ・中学校で支援学校だった方は、以前は高校も支援学校の方が多かったが、最近では、定時制や通信制の高校に通学する方もいる。しかし、卒業後に行先が見つからず困ってしまうケースが増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動支援を使って通学通所という形で利用はできても、一般就労先に行く際には利用できないため、就労できない人が一定数いるのが課題。 ・一般就労先にも利用可能な移動支援サービスがあると、障がい者の就労につながる。 ・就労支援B型事業所が増えていることは良いことだと考えられる一方で、相談支援を経ずセルフプランで利用されている方は、どのように将来に向けてマネジメントしているのか分からない部分があり、課題もあると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校で部活を頑張ってきた若い方は、卒業するとスポーツをする機会が減ると聞いているので、スポーツを通じて地域の方と交わる機会がもっとたくさんあると良い。 ・同じような障がいのある方や、重度障がいでも外出が大変な方も、色々な方と交流をしたいと聞くので、そういった方々が出会う場が必要と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターの設置についての方針。 ・地域生活支援拠点等の整備についての方針。 ・計画策定に当たったの団体ヒアリングの方法について工夫が必要。

団体名	①活動状況（年間事業等）	団体の課題	② 保健、医療について	③ 生活環境の整備について（住まいについての課題やバリアフリー、災害・緊急時の支援について）	④ 生活支援について（障害福祉サービスや地域生活支援事業、相談体制について）	⑤ 教育や保育について	⑥ 雇用や就労について	⑦ 障がいへの理解や交流について	⑧ 計画への要望について
8 江別市自立支援協議会 就労支援部会	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある方の就労をテーマに月に1回活動し、グループ活動もあり。 ①支援力向上チーム…障害のある方の就労支援の力を高めることが目的 ②企業との接点チーム…障害者雇用を検討いただける企業を増やすことを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 人口の割には市内の就労場所が少ないと感じる。 障がいが多岐に渡り、企業、障がい者への対応方法が複雑化しているため、支援員の指導力も以前に比べて求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の受診やカウンセリングに数か月待たされるといった相談があり、市内の医療機関数と患者の需要と供給のアンバランスが生じている。 精神科への通院に当たり、自立支援医療などの助成制度を知らない方がいるため、より周知が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 不動産屋で部屋を借りる審査が通らないという相談を受けている。 ヘルパー不足で、支援を受けたくても受けられない時がある。また、災害時などの緊急時でも来れないため、ヘルパーに頼らないサポート体制が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労相談の際、生活の相談にもなるが、就労支援B型事業所が多い一方、生活介護事業所が少ないと感じる。 新規の相談が増えているが、就労先は増えていないのが現状。 技術や能力があっても、コミュニケーションに不安があり、就労の行動が起これない方が一定数いるため、そういった方でも気軽に通所できる場が必要と感じる。 その人にとって、支援の対応やスピード感が異なるので、自分に合った事業所に通所できるような体制が必要と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援学校の方からだけではなく、最近は普通高校、大学、専門学校生からの相談が多いため、普通学校との連携の必要性を感じる。 本当に福祉サービスを必要の人にサービスが提供されるのが望ましいが、福祉事業所が飽和してきているという話も聞く。重要なことは、必要の人にサービスが行き届く仕組みと感している。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用で就職した方から、職場に行っても仕事量がほとんどないという話を聞くことがある。法定雇用率にだけ意識がいくと、本来あるべき障がい者支援につながらないと感じる。 就職する良さと、就職したことによって孤立化が進んでしまう二面性を感じるため、就職後の支援の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの診断を受けていても、本人や家族が障がいを受け入れられない方がいるため、一般就労後に就労が続かないという方が増えている。 障がい者はイコールA型・B型の福祉事業所でなければならぬという訳ではないので、一般就労で頑張っていける仕組みが必要。 福祉側ではなく一般企業等から良いアイデアを聞くことがあるため、コミュニティのハードルを下げ、障がいの有るなし関係なく交流を図ることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援B型事業所が増えた結果、利用者の困り込み現象のようなものが起きており、本来の障がい者支援とは異なる動きがあるため、本来の目的に沿った福祉事業所の運営が求められる。
江別市自立支援協議会 子ども部会	<ul style="list-style-type: none"> 2ヶ月に1度、年6回（4回は子ども部会、メンバーの中で、有志を募って開催をしている会が2回） 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が複雑になった（孤立家庭、その家族に対する支援） サービスの足りなさ、必要なサービスにたどり着けない 担い手不足が深刻。人材の確保、育成が十分にできない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内に小児精神科がない。 医療的ケアが必要な子はほとんど札幌に行かなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭を含めてエレベーターの設置があるとより生活しやすい、整備のための補助金が不足している。 災害対策について、冠水浸水想定区域内の指定を受けた福祉事業所については、利用者を含めた被災時の避難行動に不安があるので、訓練が必要と感じている。 放課後デイサービスの利用者は、高校卒業後には利用できなくなるため、高校卒業後の18歳以降の居場所（夕方）が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 入浴サービス支給基準を満たしていないために、自宅で保護者が入れているケースがあり、負担が大きい（医療的ケア児、肢体不自由児）。 短期入所の事業所が不足しており、保護者のレスパイトが十分にとれていないと感じる。 相談支援事業所や移動支援の事業所が不足しており、利用できていない人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児や強度行動障がい児を受け入れる幼稚園、保育園が少ない。 個別支援保育の年齢枠を撤廃して柔軟な対応をしてほしい。 特別支援学級に在籍している子の学童保育、放課後児童クラブ数の不足。 不登校児（発達に特性のある）が福祉サービスを十分に受けられるよう拡充してほしい。 特別支援学校が江別にないため、札幌や南幌まで通わなければいけない。江別にも特別支援学校が設置されると良い。 オンラインや情報機器を用いた支援が制度化されたら良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子の方が通える事業所が少ない 車椅子の方の生活の仕方が一般就労か生活介護かという二択になっている。 重度の障害（強度行動障がい）のある子たちが将来大人になった時の進路が限られている、事業所も少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子の転出入の際に、引継ぎが十分にされていないケースがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの教育機関の充実。 支援の必要がない方にもサービス提供されているケースがあり人材不足に繋がっていると感ずるため、適切なサービス利用も求めたい。
9 江別市ボランティア団体連絡会 (ガイドヘルパー関係)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の支援、作業の見守、散歩など。 会話を楽しむことを主とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドヘルパーを利用されている方は固定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 病院等での対応はよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚に障がいがある方にとって、外出時の段差の対応に苦慮するので、歩きやすい環境に変化して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 整った時代になってきていると思うが、利用者の方々の制度等の熟知度は進んでいるのかは心配。 各協会の各種行事等の参加者は固定されていると感じるため、色々な方の交流が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育課程は充実していると感じる。 中途視覚障がい者の場合に限ると生活訓練はあっても、音声機械の進歩の影響かもしれないが“点字”の学習はあまりないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある方の中でも個人差はあるが、社会とつながる意欲は尊重した支援をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今の小学生は、福祉の授業が減り、年に数回と聞くが、20年ほど前にはもっと盛んに行っていた印象があるので、増やしていくべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者の生活訓練を通じて社会とつながることの重要性。 ガイドヘルパーの養成・育成。
10 江別市ボランティア団体連絡会(朗読ボランティアグループ まの灯)	<ul style="list-style-type: none"> メンバーは50人程度 江別市からの委託（広報えべつ、市議会だより、社会福祉協議会が発行する「幸せな社会」の音声化 選挙公報の音声化 プライベートサービス（リクエスト本の朗読など） 朗読会 	<ul style="list-style-type: none"> 団体の周知（知っていただいて、利用するまでにたどり着いてもらう方法を模索中） 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の視覚障がい者への支援が行き届いているのか、団体でも把握できていないため、困らないような支援をお願いしたい。 健常者ができることであっても、視覚障がいの方は難しいことがあるので、災害の大小に関わらず、支援の手が届くよう配慮してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> デジターの再生機を購入する際の助成があり、活用されている。修理、買い替えを自費で行なってしまっている方がいる。 新しいものでも使い方を覚える必要があるため、現在の装置を修理して使いたい人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で録音に必要な機材等が使えないときに、視覚障がいの方と電話によりコミュニケーションを図ったが、普段あまり交流がない方とも会話することができたため、対面ではない交流でも、障がい者への理解や交流を深めることができた。 久しぶりの交流会で、福祉バスの必要性を強く感じた。交通手段やガイドヘルパーの利用に慣れていない方は、外出が億劫になってしまっていたり、我慢したりしていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なサービスにたどり着けるように柔軟に対応していただけるような案内を希望する。

※江別市内の避難所においては、盲導犬の受け入れ拒否は行われていないことを確認しています。